

2019年（第18次）樹勢調査結果 速報

2019年9月 名勝小金井桜の会 事務局

始めに

本年も2002年（平成14年）の第1回調査以来18回目となる、名勝小金井桜の毎木樹勢調査を実施しました。今回も予算の関係から、協力をいただいで来た「東京樹木医プロジェクト」の樹木医の方々の参加はなく、桜の会会員のみで例年と同様の調査法で実施しました。

詳細の調査データは当会のホームページに掲載します。調査概要をここに速報版として作成しました。

1 調査日と調査メンバー；

（アンダーラインはブロックリーダー）

第1ブロック：8月21日 小沼廣和、杉本和子、風間裕一 三宅章
 第2ブロック：8月24日 小沼廣和、小林由美、杉本和子
 第3ブロック：8月17日 岩間博昭、村山秀貴、本橋一夫
 第4ブロック：8月17日 小沼廣和、風間裕一、杉本和子
 第5ブロック：8月24日 植竹隆夫、本橋一夫、渡辺ふき子

合計 16名

2 調査方法； 昨年と同じ（東京樹木医プロジェクト）外指定の調査票にて評価）

3 調査結果の概要；

ブ ッ ク	2018年 総合評価ランク					計	2019年 総合評価ランク					計	本年枯死	備考
	1	2	3	4	1		2	3	4					
	状況が良い ⇔ 状況が悪い						状況が良い ⇔ 状況が悪い							
1	0	4	101	7	112	0	4	88	18	110	#147、 #152,#1002, #1003-1	枯死寸前 #102,#167,#169, #177,#178,#1000- 1,#1004,#10006, #1010		
2	16	60	67	1	144	26	82	35	2	145		枯死寸前 #211,#226, #869		
3	105	33	0	0	138	107	39	9	0	155	#287,#836	枯死寸前 #KS43,#770, #777		
4	123	40	19	20	202	89	17	76	7	189	#658,#667, #707,#714, #720,#722,	枯死寸前 #356,#357, #358,#376		
5	46	22	39	18	125	44	17	44	17	122	#599,#645	枯死寸前 #424,#444,#610, #631,#738		
合計	290	159	226	46	721	266	159	251	44	721				
比率	46.2	22.1	31.3	6.4	100	36.9	22.1	34.9	6.1	100				

元気に根付いているようでした。リストに掲載されていない苗木も多く、まだまだ管理体制に問題はあつものの、一本でも多く順調に育つてほしいと願います。

そして、来年の調査は、開始時間を1時間早くし朝8:00スタートするか、調査時期を1月早めて7月にする、などの熱中症対策を検討すべきではないでしょうか。ご検討ください。(村山秀貴)

村山
岩間、本橋



第4ブロック:

今回の重要目的の一つ「クビアカツヤカミキリ」発生の有無に目を光らせて一本一本観察をして進めましたがそれらしきものは見つかりませんでした。(虫の害について)

一割以上の樹木が枯死寸前で代わりに若木が植えられているにしても、若木の周辺は手入れが行き届かず雑草で生育環境が悪い。(杉本和子)

雷が桜の木に当たり、電流が流れた黒焦げた筋が残っているにも関わらず、しっかりと桜は成長していました。水道局内の敷地にある桜の周りの雑草が業者に刈り取られずであり、必ず作業後の確認も必要とおもいました。桜の枝が五日市街道に張り出し、伐採が大変と思いました。(風間裕一)

杉本、風間



第5ブロック:

午前9時に関野橋に集合してクビアカツヤカミキリの被害の有無等今年の調査ポイントを確認して、左岸を下流に向かって調査を開始し、梶野橋下流の横断歩道橋で右岸にわたり引き返して関野橋に戻り、午前11時10分頃調査を終了した。

この第5ブロックは平成26~28年度の3年間、小金井市主導での小金井桜復活事業として関野橋~梶野橋間のヤマザクラ苗木補植と周囲の雑木伐採が行われた区間(武蔵野市域を含む)であり、この間に我々の会が育てた苗木が計46本植樹された訳であるが、今年も全ての若木が枯れることなく概ね順調に生育していることが確認できたことは嬉しいことであった一特に一昨年、梅雨時の水不足で葉が萎れ枯死寸前だったKS30(H29.3月植樹)についても、順調に回復。但し後遺症で主幹上部が枯れており剪定等のケアが必要。

しかしながら苗木植樹の際に伐採された雑木は再び繁茂して、関野橋から下流を望むと上水の水面が見えないのは勿論のこと、植樹された桜並木も何処にあるのか判らないような酷い状態で、調査員全員「これはひどいねえ!!」と管理不足に思わず怒りのことばが出た。

以下に調査で気づいた点を列挙する。

1. 今年重点調査ポイントであるクビアカツヤカミキリの被害については、幸いなことに兆候は確認できなかった。
2. 既存樹については、新たな枯死木が3本(左岸1本、右岸2本)確認された。このうち左岸の#444については、枯死寸前でまだ完全に枯死ではないものの、道路へ張り出し状況から台風等考慮して「危険要伐採」と判断した。早期の対応を望む。
3. 上述の平成26年度以降植樹した若木のうち、幹がかなり太くなって植樹時の支柱が幹を圧迫しているものが数本出てきている。圧迫していないまでももう支柱は不要と思われるものもかなりあり、支柱撤去の対応が必要である。またヒコバエがかなり出てきている若木も多く、ケアが望まれる。
4. 今年は、例年に比しコシカシバの被害といった病虫害やキノコの被害(こけ状のものを含む)が多いように感じた。



関野橋下流の雑木繁茂の状況と調査員の本橋さん渡辺さん

以上